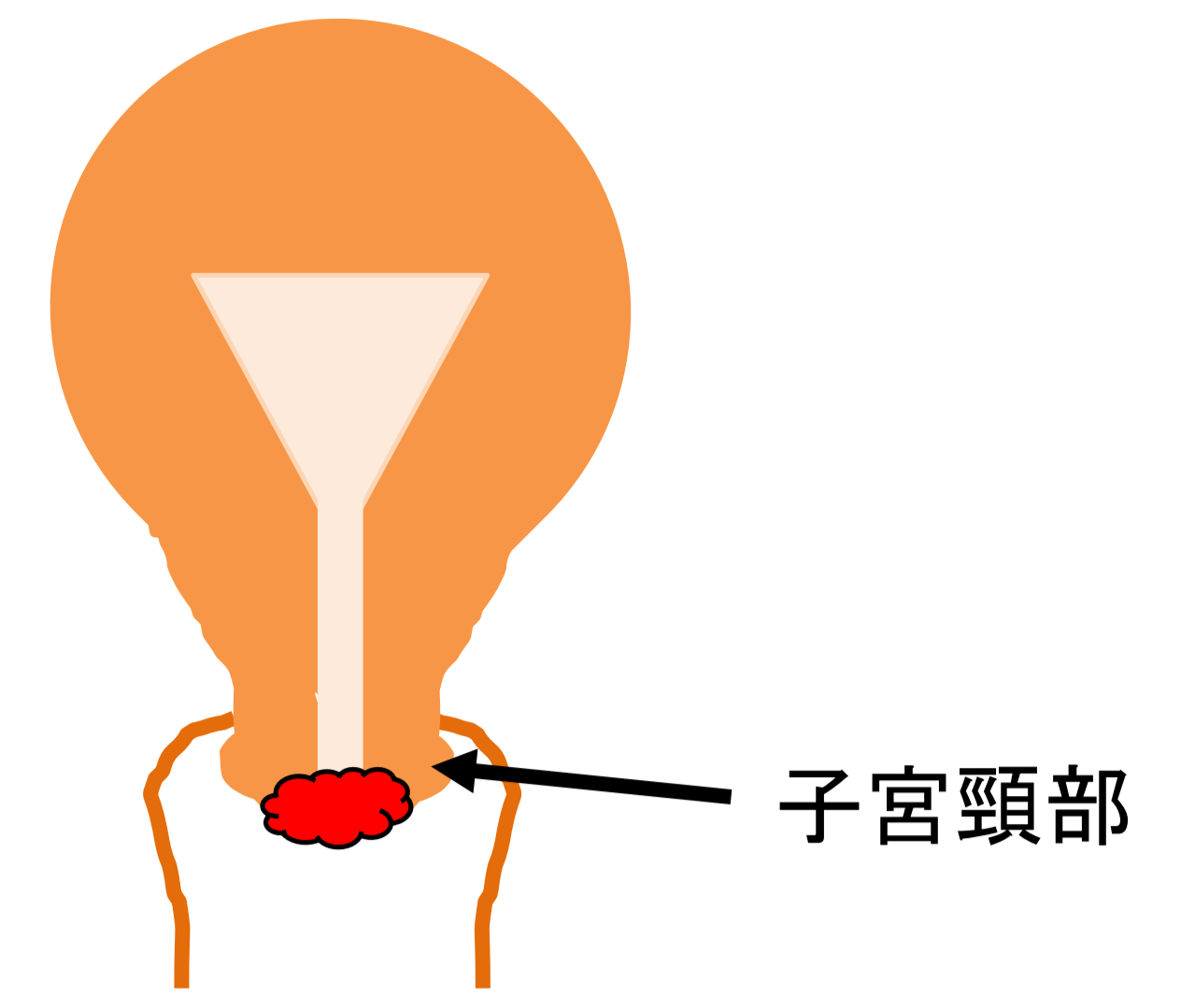


# 子宮頸がんとは

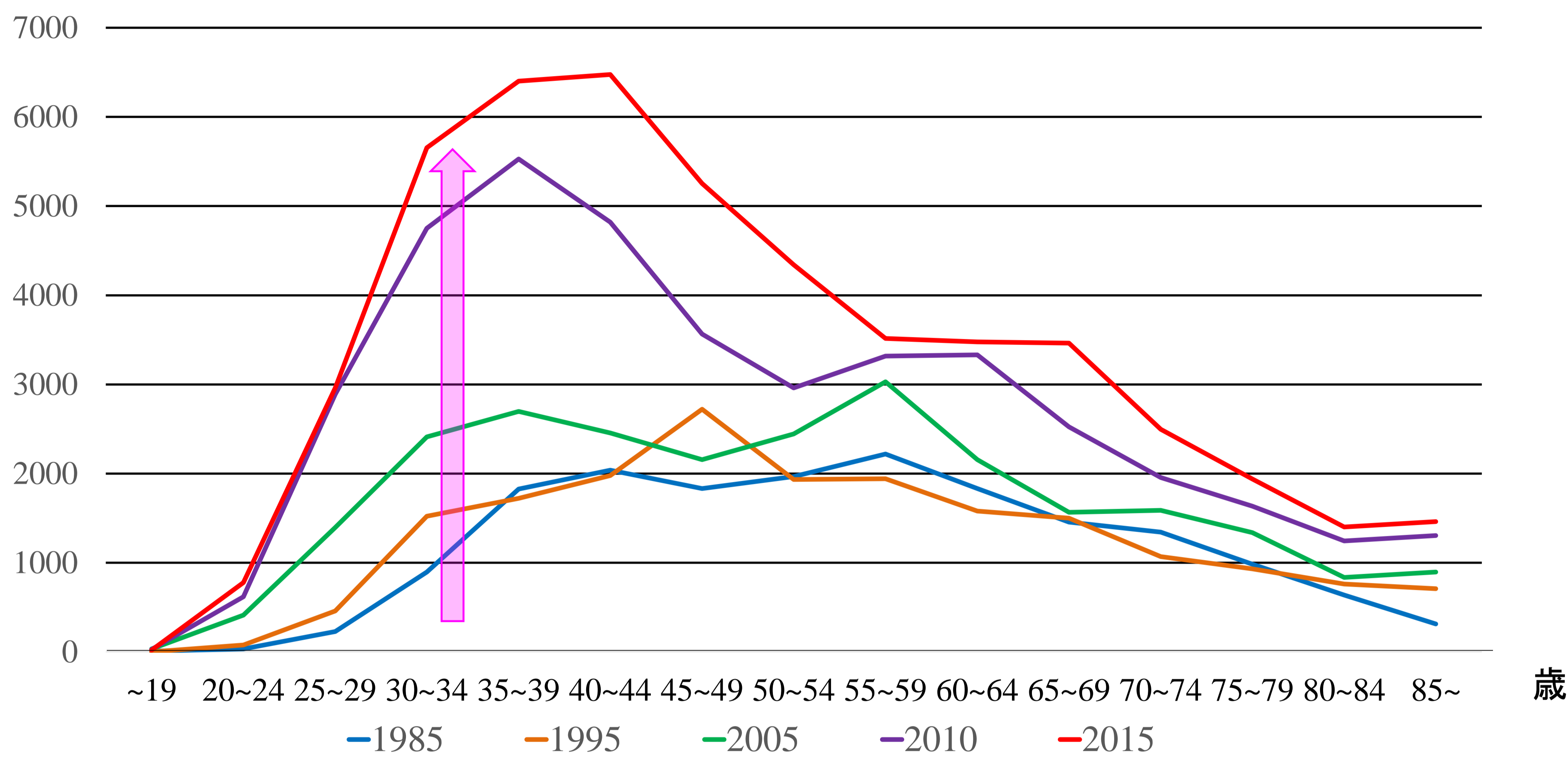
## 子宮頸がんとは

子宮頸がんは子宮の入口(頸部)にできるがんで、欧米では、「マザーキラー」と呼ばれ、小さな子どもを持つ母親たちの命を奪う病気として知られています。日本でも以前は発症のピークが40～50歳代でしたが、**20～30歳代の子宮頸がんが増加**しています。日本では、**20～30歳代の女性がかかるがんで一番多い**です。

日本では**毎年1万人**が子宮頸がんにかかり、**約3千人**が亡くなっており、**20～30歳代の女性**で子宮頸がんのために妊娠できなくなる女性が**毎年1200人**います。



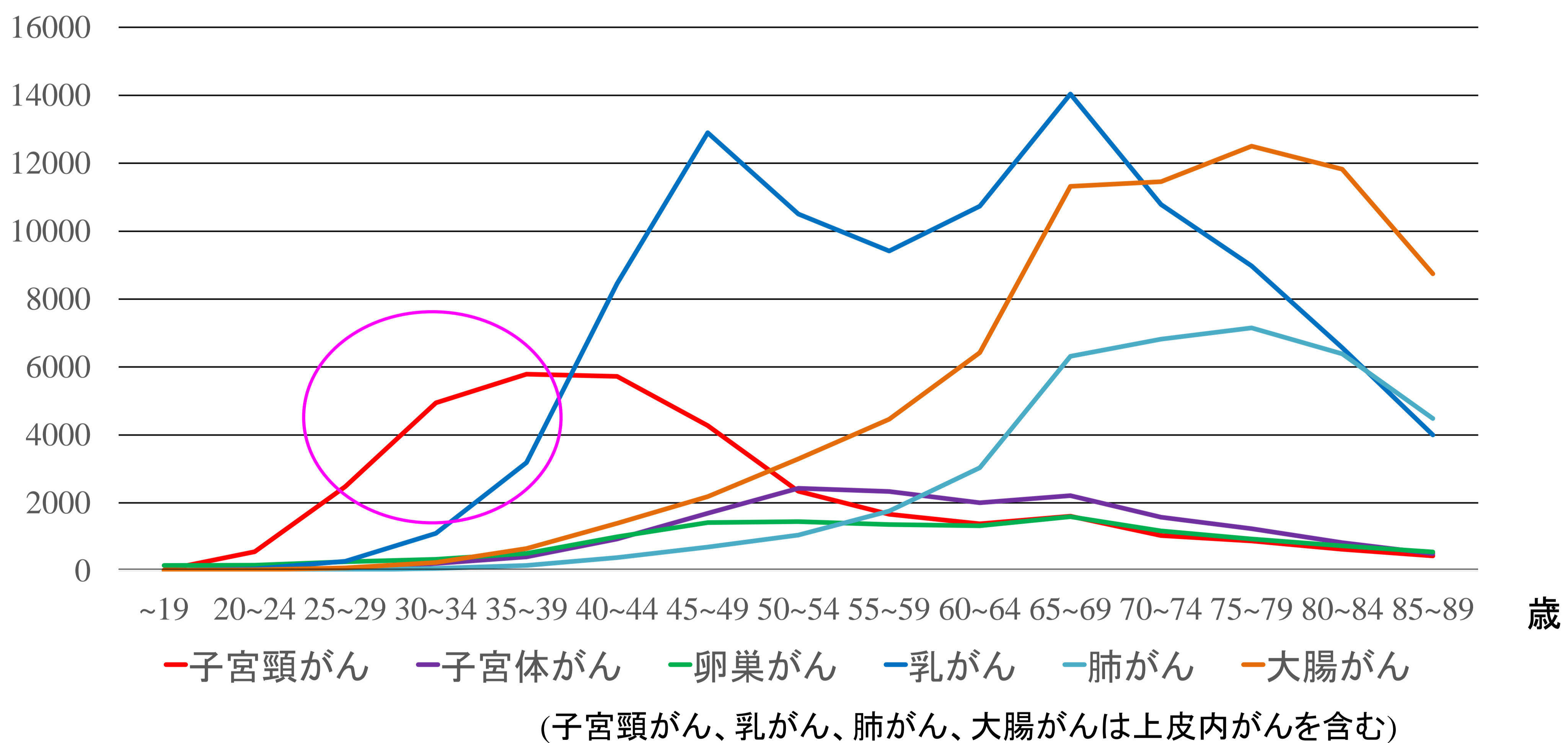
## 子宮頸がん(上皮内がんを含む)の罹患数(人口10万対)



国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録・統計データより作図



## 2017年の臓器別の罹患数(人口10万対)



国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録・統計データより作図



## 病気の原因は？

この若い働き盛りの女性や子育て世代の女性が罹患してしまう子宮頸がんが発生しているほとんどの人が、**ヒトパピローマウイルス(HPV)**というウイルスに感染していることがわかっています。



# 子宮頸がんとは

## ヒトパピローマ・ウイルスと子宮頸がん

HPVには約200以上のタイプがあり、そのうち30タイプ以上が生殖器に感染します。子宮頸がんに関係するタイプは高リスク型と読んでいます。高リスク型には、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型が含まれます。**16、18型**によるものが多く子宮頸がんの**60～70%を占めます。**

**16型、18型が多い。**

## ヒトパピローマ・ウイルスはどうやって感染するの？

皮膚と皮膚(粘膜)の接触によって感染するウイルスで、多くの場合、性交渉によって感染すると考えられています。

湯船や温泉、プールでウイルスに触れただけでは感染しません。

## ヒトパピローマ・ウイルスは誰でも感染します。

セックスの経験人数などはそれほど関係ありません。女性の**50%以上**が一生に一度は感染すると考えられています。

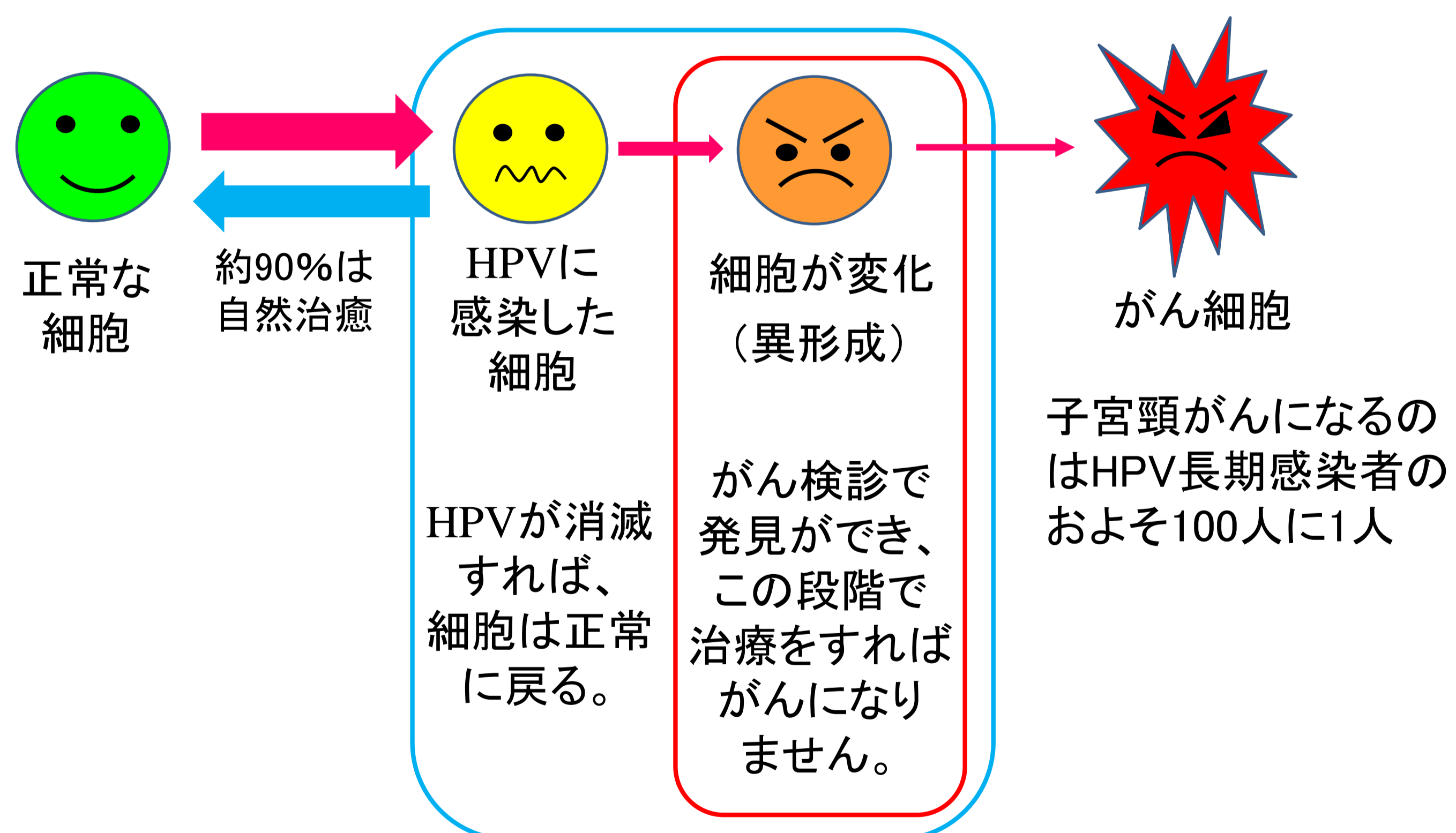
性行為を一度でも行ったことがある女性であれば、**誰でも感染する可能性のあるウイルス**です。

でも、そのほとんどが**2年以内に消失**します。

(約70%は1年以内に、約90%は2年以内にウイルスが消失します)

但し、再感染が多いです。

## HPV感染から数年~数十年かけて、一部ががんへと進行する。



HPVに感染してから子宮頸がんへ進行するまでの期間は、数年~数十年と考えられます。HPVに感染した女性の一部は、感染細胞が異常に変化して、「**子宮頸部異形成(いけいせい)**」という病気(前がん病変)を発症します。異形成は、**一般的に症状が出現しませんが、子宮頸がん検診で見つけることができます。**しかし、がん検診を受診しないと、気づかないまま、子宮頸がんへ進行することがあります。

## まとめ

- ・20代、30代の子宮頸がんが増加しています。
- ・ヒトパピローマ・ウイルスは多くの人が感染しますが、でもほとんどは2年以内に消失します。発症率は非常に低く、いわゆる性病(性行為感染症)とは違います。
- ・感染が持続した人の一部が前癌状態や子宮頸がんになります。